

おとくにしんぶん 7

2013

http://www.otokuni-jc.org/

発行/公益社団法人乙訓青年会議所 〒617-0826 長岡京市開田3丁目 10-16 長岡京市立産業文化会館2F 編集/JC 運動情報委員会

Contents

6月オープン例会

文化少年団

乙訓の元気



乙訓の元気

向日トリックアート商店街

工事中?商店街の床に大きな穴がつ!

いやいや、よく見てください。これは床に描かれただまし絵、いわゆる「トリックアート」です。

トリックアートで地域活性化に取り組んでいる「向日トリックアート商店街」の事務局長を務めているのが、乙訓青年会議所OBの磯野勝先輩。以前本紙でも取り上げましたが、磯野先輩は「京都向日市激辛商店街」の仕掛け人で、同じく事務局長も務められています。今回は、次々と面白いまちづくりを発信し続けるその秘密を取材して参りました。

——向日トリックアート商店街を立ち上げるきっかけは何だったのですか?

磯野 激辛商店街はある程度の人気が出ましたが、食事に来たお客様がその後見て回る観光スポットが市内

に少ないのが現状。だったらそれを作ろうと。激辛とトリックアートの相乗効果でお客様を呼び込むことを期待しています。

——なぜ、トリックアートだったのですか?

磯野 単純に私が好きだったので。あと、トリックアートは写真を撮影したり、SNSで友達と楽しさを共有したり、参加型のアミューズメントになることが良いと考えています。

——今現在、ご苦労されていることはありますか?

磯野 トリックアートの作成には費用がかかるんです(笑)。府や市の補助金の活用も行っており現在三ヶ所に展開しています。今年中に十か所、将来的には百か所を目指しています。

——芸大生やボランティアの活用などは?

磯野 先々には考えていますが、まずは質的に高いものを揃えないと人を呼び込めないのです。十か所を超えてからかな。

——最後に、次々と新しい発想でまちづくりを行っている磯野先輩が心がけていることは何でしょうか?

磯野 お客様が楽しめるかどうか、常に新しい発見がないかアンテナを張り巡らしています。自己満足ではなく、相手にとってメリットを具体的に提示すれば、お客様だけでなく仲間を増やしていくことも容易になっていきます。

——ありがとうございます。

まちづくりに懸命に取り組む磯野先輩の背中から「なぜベストを尽くさないのか!」と無言の叱咤激励の声がかえってきました。

現在トリックアートは東向日のライフィッシュ内及び、五辻の野村龍酒店さんで楽しむことができます。

向日トリックアート商店街、フェイスブック上でも展開しておりますので「いね!」をお願いします。

https://www.facebook.com/MukoTrickArt?sk=page_map#/MukoTrickArt
(記事 堤 淳太)



被災地復興支援事業

「復幸体験ツアー in 女川町」

二十一年三月十一日に起きた東北地方大震災以降、日本青年会議所及び各地青年会議所では震災発生時の物資の支援や炊き出し等の活動を始め、現在も被災地への復興の為に様々な取り組みを行っています。その中の一つの事業に乙訓青年会議所から監事、齊藤寛之君が参加しました。現地の様子をお聞きしましたのでご紹介致します。

「六月一日、二日の二日間の日程で、近畿地区協議会 地域災害ネットワーク確立委員会の事業である「漁業体験で産業復興!」今こそ被災地を忘れない「復幸体験ツアー」女川町、を開催致しました。この事業では、被災地の被害状況と現状を知って頂き、産業復興の必要性や現地の自立的・持続的復興への意志を感じて頂く事で、更なる連携と支援の輪を広げる事を目的としております。現地では、まず巨大冷凍貯蔵施設「マスカー」を見学し、また、現地の語り部の方に当時の様子や、現状についてお話し頂きました。その後、現地の復興リーダーの方々の懇親の場を設け、被災地の現状を直接お聞きし、この近畿地区からでも出来る復興支援とはどのようなものがあるのか、考え話し合う機会を設けました。二日目は、早朝より漁業体験として、養殖ホタテの収穫と稚貝を吊るす作業を行い、最後には「我歴 story in 女川」という音楽祭に参加し、地元の良い思いを感じて頂きました。現地の皆さんは深い悲しみの上に、と

でも前向きに頑張られています。是非とも、一度現地の様子を実際に感じて頂きたいと思えます。そして、みんなで我々が出来る事について考えましょう。また、当委員会では、復幸体験ツアー以外にも復興支援事業として、東北の食材を近畿の企業とマッチングを行い、近畿圏にて流通を図る事業も開催致します。この乙訓の地においても出来る復興支援も行いますので、是非ご協力お願い致します。

乙訓青年会議所では今後も、日本青年会議所や近畿地区協議会との連携を図りながら、被災地の復興支援にメンバー一同参加協力して参ります。そして日本を元気にする為には、まず地域を元気にする事が必要ではないでしょうか。地域の元気の為に乙訓青年会議所は、これからも乙訓地域の皆様と共に歩んで行きますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(記事 崔 祥龍)



ホタル鑑賞の夕べ

六月十四日 (金)・十五日(土)

長岡京市奥海印寺、小泉側上流西代橋付近におきまして、ホタル鑑賞の夕べが開催されましたので取材に行つて参りました。ホタル鑑賞の夕べを主催された長岡京市ゲンジボタルを育てる会で会長をされている



多貝茂さんは、乙訓青年会議所のOGの多貝有美先輩のお父さんであられます。会場は家族で来られたお客様が多く、大変賑わっていました。雨の後の艶のある暗闇の中に、緑色の幻想的なそして暖かな小さな光が舞い人々を楽しませていました。それは人々の間を灯火が繋ぐ様でもありました。環境を通じて人々の笑顔を作る活動をされているゲンジボタルを育てる会の皆様は、同じまちづくりの団体として沢山の刺激を頂きました。このような活動で未来を担う子ども達の郷土愛が育んで行く事を切に願ひ、私達も日々精進して参りたいと思ひます。会場では美味しいお茶も振る舞われ、乙訓地域の魅力を再発見した夜となりました。

(記事 崔 祥龍)



編集後記

梅雨らしくなってきました今日この頃。今年も残り半年となり更に頑張つて参りましょう。

編集長 谷口直満

JC 運動情報委員会

委員長 崔祥龍 編集長 谷口直満 副編集長 中路耕太
編集委員 岩井泉二郎 黒川昌哉 高井茂行 堤淳太 中小路健吾